

令和5年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（外国語）

身に付けさせたい力	高学年
	<ul style="list-style-type: none"> ○実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能 ○自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力 ○他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度

児童の実態	高学年			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">5年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○T1やALTの発音や、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童もいる。 ○既習事項をクラスの前で堂々と発表できる児童が多くいる反面、英語を習っていない児童には支援が必要である。 ○英語を発話することに対して、抵抗感を持っている児童がいる。 ○あいまいな理解に耐え、少しでも聞き取ろうとする児童が少ない。 ○書くことの指導が入り、アルファベットでの表記に苦労している。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">6年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○T1やALTの発音、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童も多い。 ○発音や、英語での発表に自信をもてない児童が多い。 ○英語を発話することに対して、抵抗感を持っている児童がいる。 ○T1やALTの問いかけに、意欲的に答える児童もいる反面、英語が苦手な児童が得意な児童に任せてしまい、全員への習熟に結びつかないことがある。 </td> </tr> </table>	5年	<ul style="list-style-type: none"> ○T1やALTの発音や、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童もいる。 ○既習事項をクラスの前で堂々と発表できる児童が多くいる反面、英語を習っていない児童には支援が必要である。 ○英語を発話することに対して、抵抗感を持っている児童がいる。 ○あいまいな理解に耐え、少しでも聞き取ろうとする児童が少ない。 ○書くことの指導が入り、アルファベットでの表記に苦労している。 	6年
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○T1やALTの発音や、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童もいる。 ○既習事項をクラスの前で堂々と発表できる児童が多くいる反面、英語を習っていない児童には支援が必要である。 ○英語を発話することに対して、抵抗感を持っている児童がいる。 ○あいまいな理解に耐え、少しでも聞き取ろうとする児童が少ない。 ○書くことの指導が入り、アルファベットでの表記に苦労している。 			
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○T1やALTの発音、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童も多い。 ○発音や、英語での発表に自信をもてない児童が多い。 ○英語を発話することに対して、抵抗感を持っている児童がいる。 ○T1やALTの問いかけに、意欲的に答える児童もいる反面、英語が苦手な児童が得意な児童に任せてしまい、全員への習熟に結びつかないことがある。 			

授業改善の具体的な手立て	高学年			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">5年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを図る活動の際には少人数で行い、なるべく全員が発言できるよう学習形態を工夫する。 ○あいまいさに耐え、少しでも言えた、通じたという体験を増やし、ほめ認めていく。 ○書くことへの抵抗をなくすために、一度に書き写す量の調整と時間を確保する。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">6年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が必然性をもって話すことができるようにする。 ○一人一人が発言し、授業に参加できるように、学習形態を工夫する。 ○一人一人が自信をもって表現できるように、単語や表現の仕方を繰り返し練習できるようにする。 ○学習形態をパターン化することで、児童が授業や英語の表現に慣れていくことができるようにする。 </td> </tr> </table>	5年	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを図る活動の際には少人数で行い、なるべく全員が発言できるよう学習形態を工夫する。 ○あいまいさに耐え、少しでも言えた、通じたという体験を増やし、ほめ認めていく。 ○書くことへの抵抗をなくすために、一度に書き写す量の調整と時間を確保する。 	6年
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを図る活動の際には少人数で行い、なるべく全員が発言できるよう学習形態を工夫する。 ○あいまいさに耐え、少しでも言えた、通じたという体験を増やし、ほめ認めていく。 ○書くことへの抵抗をなくすために、一度に書き写す量の調整と時間を確保する。 			
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が必然性をもって話すことができるようにする。 ○一人一人が発言し、授業に参加できるように、学習形態を工夫する。 ○一人一人が自信をもって表現できるように、単語や表現の仕方を繰り返し練習できるようにする。 ○学習形態をパターン化することで、児童が授業や英語の表現に慣れていくことができるようにする。 			

		高学年
成果 (○)と課題 (●)	5年	<p>○ゲームを通して楽しくコミュニケーションを図ることができた。また、フラッシュカードを用いて繰り返し単語を練習することで、英会話に親しむことができた。</p> <p>○既習の表現を用いて、会話を続けることができるようになってきた。リアクションや表情も豊かになってきている。</p> <p>●一斉指導の際には、積極的に声を出して表現することができたが、個人活動やペア活動になると、どのように表現したらよいのか忘れてたり、消極的になり声に出すことができなかつたりすることが多い。また、積極的な友達に表現をまかせきりになることもある。一人一人に表現が身に付くように、一人一人が声を出して練習するなど学習形態を見直す必要がある。また自信をもって発話できるまで児童が英語を繰り返し聞く活動を取り入れていく必要がある。</p> <p>●書くことに抵抗がある児童が多く見られた。児童が英語嫌いにならないように楽しく書けるような手立てを考えていく必要がある。</p>
	6年	<p>○毎回のグリーティングを通して、英語表現を用いたやり取りに抵抗なく取り組むことができるようになった。</p> <p>○単元の終末に、目的意識のもてるような活動にすることで、児童が意欲的に学習に取り組む姿が見られた。</p> <p>●教科書を用いての授業のため、関心・意欲に差が激しくなった。英語嫌いにならないように授業を改善していく。</p> <p>●書くことにより抵抗がある。大文字、小文字、過去形など、工夫が必要である。</p> <p>●関心・意欲を高めるために、単元末の活動をモデリングするなど、導入の工夫をする必要がある。</p>